

特集

構えないでリフレクション

日々のふり返りを積み重ね、リフレクションを深化させよう 田村由美
 前進するリフレクションをめざして——活用できるさまざまなツール 大山牧子
 複数の学校の教員が参加して行う授業リフレクション 湯谷孝太郎ほか
 PF-NOTE による教員の学生評価のリフレクションと評価改善 平山朋子
 各回の授業案をリフレクションシートとして 江川美由紀/後藤多美子

【連載】

心一文字・3 園家文苑+水戸優子
 ナースよ、リアリストたれ! 中西睦子が語る看護と教育・3 松澤和正/中西睦子
 ひろがる災害医療と看護 身につけるべき知識とスキル・番外 高村ゆ希
 看護実践力を育む教育方法の開発 日本赤十字広島看護大学の試み・8 川西美佐
 看護学校管理・運営のための12のポイント・12(最終回) 江川万千代
 看護教育に協同学習法を取り入れる・12(最終回) 緒方巧
 看護はやっぱり面白い!? アラフォー女子大生の「看護」探求の日々・15 片山紀子
 Mail From USA —『JNE』を読み、世界の看護教育の流れを知る・59 石井素子

編集後記

◎編集室ツイッター <http://twitter.com/KANGOKYOIKU>

●1号から表紙と巻頭ページが変わりましたが、いかがでしょうか? 表紙は万華鏡作家の辻菜月さんに、自作の万華鏡を使用した写真を提供していただいています。表紙の都合上、今のところいかにも万華鏡な写真を掲載していますが、「え、これも万華鏡?」と驚く作品や、人体に万華鏡の映像を映したファンタジックでちょっとエロティックな作品もあります。●巻頭連載の「心一文字」では、書家の園家文苑さんによる、テーマである文字を「文字の心」「作者の心」「見る側の受け止める心」の三つの心を重ねて描いた「心書」を掲載しています。●私はそれほどアート系のイベントに足を運んでいるわけではないのですが、行けば必ずと言っていいほど素敵な出会いがあります。ぜひとも読者の皆様も、普段接しないジャンルのアートに出会うため出かけてみていただきたいと思います。…大野

●新年早々、ちょっとした挑戦をしています。フランスでは「メスを使わない手術」とも呼ばれている(らしい)、ファスティング(断食)です。効能に挙げられるダイエットや美肌はともかくとして、五感が鋭くなり、脳が冴え、スポーツパフォーマンスが向上すると言われれば、試さないわけにいきません。「詰め込まず、吸収しやすい環境をつくる」という発想は、教育にも通じるものがありそうです。●ファスティングマイスターの指導のもと、酵素ドリンクと水だけの生活を始めて5日、確かに脳は冴え、眠気もありません(鈍っていること、眠っていることに気づいていない可能性は否定しませんが)。サポートは24時間体制で、困ったときはいつでもLINEで相談可能。きてますね、電子時代。皆さまも今年の新たな挑戦として断食、もとい、eラーニングを試してみたいはいかがでしょうか。…加藤

看護教育 第55巻 第2号 2014年2月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2014, Printed in Japan

(1部)定価: 本体1,400円+税 2014年・年間購読料(増大号を含む12冊)

冊子版16,570円, 冊子+電子版/個人19,570円, 冊子+電子版/共有22,100円, 電子版/個人16,570円,

電子版/共有19,100円(いずれも税込, 送料弊社負担)

※上記は2014年3月末までにご注文いただいた場合の年間購読料です(2014年3月ご購入開始分まで適用)。

発行: 株式会社医学書院 代表者: 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL: 03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL: 03-3817-5776 メールアドレス: kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当: 加藤・大野・早田

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写, スキャン, デジタルデータ化など)は, 「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて, 業務上使用する目的(診療, 研究活動を含む)で上記の行為を行うことは, その使用範囲が内部的であっても, 私的使用には該当せず, 違法です。また私的使用に該当する場合であっても, 代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY (社)出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は, そのつど事前に, (社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/14/ ¥250/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは, 1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には, 筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。

本誌「看護教育」では、みなさまの誌面へのご参加をお待ちしています。

(2011年3月1日改訂)

掲載欄

●**看護教育研究**：看護学教育についての研究で、独自の知見が認められる論文／●**実践報告**：看護学教育の実践に関する内容で、発表の意義が認められる論文／●**調査報告**：看護学教育についての調査で、発表の意義が認められる論文／●**短報**：報告に準じ、発表の意義が認められる論文（「目的」「方法」「結果」に構成を絞ることを原則とする）／●**スクランブルゾーン**：看護教育に関するご意見や情報交換の欄。上記4区分に該当しない、本誌内容へのご感想やエッセイです（本欄のみ研究論文としての形式は不要）。

ご投稿の前に

●未発表のものに限ります

国内・国外を問わず、他誌に掲載されたもの、掲載予定のもの、自らあるいは第三者のホームページに収載または収載予定のものはご遠慮ください。

●倫理的配慮について

十分な手続きと、必要場合は対象者の同意を得て執筆・投稿をお願いします。

●他論文からの引用・転載は必要最小限に

無断転載は固くお断り致します。必ず原著者の許諾を得てください。

●原則として返却しません

投稿原稿は、採否にかかわらず返却いたしません。

●掲載には査読審査(3か月程度目安)を要します

投稿原稿に対しては、採否にかかわらず原稿受領のご連絡を致します。お問い合わせの際は、受領連絡に記された受付番号をお申し出ください。

●論文の採否について

論文の採否は論文審査委員の査読を経て決定致します。審査の結果、原稿への加筆、修正をお願いすることがありますので、予めご了承ください。

●著作物について

本誌に掲載する著作物の複製権、上映権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は医学書院に譲渡されたものとします。著作者ご自身のこれらの権利を拘束するものではありませんが、再利用される場合には事前に弊社あてにご一報ください。

●掲載の場合には

掲載誌と規定の原稿料をお送りいたします。

執筆規定

●原稿表紙

希望する掲載欄を明記した上で、次の項目を漏れなく記載する。論文名、執筆者名(ふりがな)、所属機関、連絡先(複数で執筆した場合は代表者)の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ、Eメールアドレス(推奨)。

●原稿分量

「看護教育研究」は8000字、「実践報告」「調査報告」「スクランブルゾーン」は6000字、「短報」は2400字を上限とする。図表等はこれに含む。※図表は、大小にかかわらず1枚400字相当として換算(引用文献も字数に含む)。

●本文

B5判あるいはA4判に横書きとする。

●図表・写真

図表・写真は本文には挿入・貼付せず、別紙(別ファイル)とする。引用・転載の場合は出典を明記する。挿入箇所は本文に明記する。

●引用・参考文献

本文中の該当箇所の右上に番号を付した上で、本文末尾にまとめて表記する。原則は下記の通り。

・書籍の場合

番号) 著者名：書名、発行所、開始ページ—終了ページ、発行年。

番号) 著者名(翻訳者名):論文名、編者名:書名、発行所、開始ページ—終了ページ、発行年。

・雑誌の場合

番号) 著者名：論文名、雑誌名、巻(号)、開始ページ—終了ページ、発行年。

原稿送付先

●Eメールの場合(推奨)

メールのタイトルを「投稿論文」とし、原稿は添付ファイルとする(5MB以下)。メールの本文に連絡先を明記して、下記までご送信ください。

kankyou@igaku-shoin.co.jp

●郵送の場合

原稿プリントアウトにデータを保存したメディアを添付し、下記までご送付ください。

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

(株)医学書院看護出版部「看護教育」編集室

『看護教育』 バックナンバーのご案内

(1部) 定価：本体 1,400 円＋税
年間購読 好評受付中!
電子版もお選びいただけます。

Vol.55 No.1

2014 年 1 月
特集

授業研究のすすめ

看護教員の仕事の第一は「教育」ですが、「研究」もないがしろにはできません。ただ、研究を専門に行う立場ならいざしらず、教育をしながら研究に取り組むのは容易なことではありません。量的研究にしても質的研究にしても、その遂行のためには膨大な時間やエネルギーが必要です。しかも、その研究成果を日々の教育に活かすのも簡単ではありません。そこで、まずは授業研究をおすすめしたいと思います。

授業研究は、実際に自分の教育自体を研究するのでから、題材がもっとも身近でかつ結果を即活かせるというメリットがあります。しかし実際には、それを「研究」と位置づけて何らかの形にまとめるという試みは少ないように感じます。さまざまな形で取り組まれている授業研究を、自らの授業充実にだけ結び付けず、「研究」の一環としてまとめたうえで、広く共有されるものとして発表するという姿勢をもってみてはいかがでしょうか。そうすれば、個々の成果が共有財産となり、授業の底上げがより一層進むのではないかと思います。

ぜひとも、「研究」の視点を明確に、授業研究に取り組んでいただきたいと思います。

- 看護教育の初めの一歩は自分の授業研究から 川口孝泰
- 授業研究の基礎のキノ 吉崎静夫
- 授業研究が教員にもたらすもの 新保幸洋
- 東京都立看護専門学校における「授業研究」研修の実践 中山富子
- 「座談会」授業から教員が学ぶことを研究の一端に 齊藤茂子・田中郁江・小池邦美・國田菜穂



Vol.54 No.12

2013 年 12 月
特集

移動介助技術の指導方法 ボディメカニクスを実践に活かす

看護師にとって腰痛予防は大きな課題であり、基礎教育のうちに適切な移動介助技術を学び、身につけることは、入職後に身体を守るために非常に重要です。この移動介助技術にはさまざまな方法論がありますが、最も大切な原理原則はすべてに共通しています。しかし、なかには流行りの方法論の表面的な新しさにばかり注目して導入が決められ、しばらく経つと「効果が出なかったから」といってやめてしまうというところもあるようです。よくよく聞いてみると、当たり前原則を怠って、その方法に特徴的な部分だけをなぞっていたということがわかったりします。

今回の特集では、看護で用いられる介助技術の原理原則として、今一度「ボディメカニクス」に立ち返ります。なぜ重心を下げるのでしょうか。支持基底面を広げると、何がよいのでしょうか。また、この原則にはどんな限界があり、それはいかにして乗り越えることができるのでしょうか。まずは人間工学の視点からの解説でポイントを整理し、そのうえで実践に活かすための学生指導にふれることで、どのような方法論の指導にも通じる強固な土台をつくっていただければと思います。

- 移動・回旋動作のボディメカニクスの基本原理 小川鑑一
- ボディメカニクスを意識化した看護動作の教育活動 水戸優子
- ボディメカニクスから学ぶ転倒・転落の危険と安全確保 鈴木ひとみ・十九日君子
- ボディメカニクスの限界をどう超えるのか——ひとの自然な動きを支援する視点と可能性 鈴木和代・若村智子
- 車椅子移乗介助の技術教育におけるボディメカニクスの再考 平田美和
- 道具を活用した移乗介助のボディメカニクス——他職種との連携を視野に入れた教育 西田直子・富田川智志
- 手すりを使ったトイレ内の移乗動作のボディメカニクス 國澤尚子



[2013 年 11 月号 (Vol.54 No.11)]

助産師教育の現状と課題

[2013 年 8 月号 (Vol.54 No.8)]

教育の質を高める学習方法
いまから始める協同学習

[2013 年 10 月号 (Vol.54 No.10)]

対話のスキルを
教育に活かす！

[2013 年 7 月号 (Vol.54 No.7)]

スマホ時代のリスク管理——
情報リテラシーを育みトラブルを防ぐ

[2013 年 9 月号 (Vol.54 No.9)]

2014 年の国試に向けて
できること

[2013 年 6 月号 (Vol.54 No.6)]

クリティカルシンキングは
終わらない

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2011 年 12 月号 (Vol. 52, No.12) 以前の号は、東亜ブック (TEL.03-3985-4701, FAX 03-3985-4703, <http://www.toabook.com/>)
- 2012 年 1 月号 (Vol. 53, No. 1) 以降の号は、医学書院販売部 (TEL.03-3817-5659) にお願います。